

広島市教育センター所報

No.18

昭和60年2月

広島市教育センター
広島市東区半田新町 三丁目17番1号
〒730 電話 (082) 223-3563

犬の話

広島大学教授 川村 毅



私は犬がたいへん好きです。生後間もない真っ黒い小犬が、わが家に住みついて早くも6年目を迎えようとしている。名前をハッピーと名付け、ハッピーと呼べば、どこにいてもすっとなでてきて精一杯の愛嬌をふりまく。ほんとに可愛い奴で、今では家族の一員同然である。

私の友人で、生理学研究者のF氏もまた犬がたいへん好きである。もっとも彼の場合は、実験用の犬であって愛玩用ではない。現在14匹という大世帯で、それだけにたいへん手がかかるらしい。広島にいる限り、毎朝8時には出勤して、自ら食餌づくりや運動の日課が始まる。F氏のわけへだてをしない愛情や真心が犬にも通じるとみえ、今では、実験台に上ることも恐れず、注射のときなど「お手」と言えば素直に手を出すほど、強い信頼関係で両者は結ばれている。この行き届いた飼育というか教育が、今では有名な話題となり、学会などで、研究発表に対する質問よりも、犬の飼育のノウハウについての質問が多くなった由である。このことは海外にも伝わり、アメリカの製薬会社(SKF)から飼育費としての研究費がついた珍しいケースになっている。これからは、F氏の研究室では、犬様

と呼び、犬好きでない者は研究生として入室できなくなるかも知れない。

ところで、犬に欠かせぬものに散歩がある。ご多分にもれず、わが家のハッピーも散歩となると目を輝かし、お供の私を引き回す。近くの河川敷で、放つてやると半径30mくらいの中を自由に跳び回る。40分もすると、運動が足りるのか、私のそばにやってきて、帰りを促す仕草をする。ところが、雨などで運動が意のままにならない時は、沈んだ表情になり、どんな好物でも口にしようとしなない。運動不足がこれほど敏感に影響するのかと思えば驚きである。

犬を飼ってみて思うことは、飼うことは誰でもできるが、犬と親しみ友だちにならない限り、犬の信頼を得ることはむずかしいということである。また、犬といえども、幼犬時の「しつけ」がいかに大切かということである。高価で、利口そうな犬でも、知能の開発がなされない限り、その能力を発揮できるものではない。環境を整備し、犬に対する親しみと愛情をもって接するとともに、正しく、厳しい教育や適当な運動などがあってこそはじめて、その能力を引き出すことができる。どこからともなくわが家に住みついたハッピーであるが、私たちが忘れようとしている大切なことをいろいろと教えてくれるものである。

誌 上 講 座

今回は、特別活動と障害児教育の講座を通しての気づきや指導のポイントなどについて紹介します。

◆係活動を活発にするために

指導主事 升 尾 好 博

「係の編成にはあれほど熱中した児童が、編成後1か月もたつと、さっぱり活動しなくなりました。」というような声を聞くことが多い。そこで、係活動を活発化するための指導のポイントのいくつかを紹介する。

1 次のような条件を備えた活動を積極的に取り入れるようにする。

- ・児童にとっておもしろいもの
- ・自分にもほかの人にも役に立つもの
- ・創意工夫の余地のあるもの
- ・協力できる条件をもっているもの
- ・活動の結果が形となり、積み重ねられるもの

2 次のような視点から、一人ひとりの児童の活動や集団の活動を認め、励ますようにする。

- ・結果よりも活動の過程を大切にする。
- ・機をのがさず、ほめる。
- ・あまり目立たない地味な仕事をこそしっかり認める。
- ・たとえわずかな創意工夫でもほめる。
- ・学級のみみんなの役に立っていることを認める。

3 他学級の係活動の様子を知らせたり、係活動についての情報を提供する。

4 係活動に関することも、積極的に学級会の議題として取り上げるようにする。

以上のほか、係内の人間関係の改善、役割分担の見直し、活動時間の確保、教室環境の整備なども大切である。しかし、最も大切なことは、教師の係活動に対する積極的な姿勢ではなかろうか。教師の係活動を重要視する姿勢が、児童にも好影響を与えるように思う。

◆障害児とのレポート成立の手だて

主任指導主事 原 克 昭

学校教育において、教師と児童生徒とのレポートの成立は重要な要件のひとつである。一般に、レポートといえば児童生徒の教師に対する信頼感に重きがおかれがちであるが、長年、障害児とのかかわりの中で学んだことは、教師の児童生徒に対する信頼感や愛情が重視されなくてはならないということである。つまり、レポートは教師と児童生徒とのやりとりの一つ一つを積み上げていくことによって作られていくものであるといえよう。

レポート成立への教師の働きかけとして、

1 障害児一人ひとりとの情動的な関係をつくる。

- ・子供の言動を模倣し、それを共感的に理解し、子供との楽しさ、つき合い方を見つけ出していく。
- ・だっこ、おんぶなど身体接触や感覚的な快感を与えていく。
- ・共快感や共通の楽しさを見い出していく。
- ・共通の感情や行為を作っていく。
- ・気持ちのつながりをつけていく。

2 興味・関心を素材にしてやりとりをする。

- ・共通に楽しめる場面を作っていく。
- ・教師といっしょにいる方が楽しいという状況を作っていく。
- ・教師も楽しむことによって子供をまきこんでいく。
- ・やりとりの喜びを感じさせるように働きかけていく。

以上のようなかかわりの中で、双方が気楽さ、親しみの感じが生まれてくるとともに一体感を感じる瞬間を経験するようになる。これがレポートではなかろうかと思うのである。

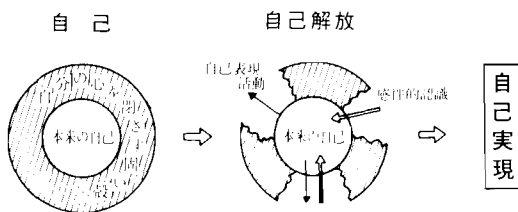
教育研究二題

教員特別研修生（59年度前期）として、6か月の研修を終了されたお二人の先生の研究の概要を紹介します。

◆創造的自己実現活動を生かした生徒指導の すすめ方に関する研究

広島市立八木小学校教諭 松田孝司

児童が心を解放し、生き生きと自分を表現したり、頭だけでなく、心や体でも理解するなどの経験を積み重ねることによって、生徒指導の課題である自己実現が可能になるのではなかろうか。つまり、自分の固い殻を打ち破って自己解放を図り、本来の自己を生かしていくために自己表現力を高めたり、感性的認識を深めたりするなどの指導が必要だと考えられる。本研究は、このような児童の自己実現をめざす指導の在り方を明らかにしようとしたものである。



感性を豊かにし、表現力を高めるには児童一人ひとりの内面を耕すことから始めなくてはならない。そのため、事例研究では耳をすませて音を見つけるなど五感を集中させること、音楽を聴いてイメージをつくらせることなど、どの児童にもでき、そして、個性を生かせる学習活動から指導をすすめた。感覚を十分働かせて想像を豊かにすることによって自らの内面に表現したいものが生まれ、またまわりの世界をより豊かに把握できるようになる。次いで、音楽のリズムに乗って自由に身体表現をしたり、のびのびとパントマイムをする中で、集中力、想像力、表現力などの自己実現につながる能力が養われていく。これらの活動を通して、児童の表情が明るくなり、自分で表現を工夫する姿が見受けられた。

◆生徒のもつ悩みを解決する力を育てるための 指導・援助に関する研究

広島市立船越中学校教諭 森下公二

本研究では、中学生の問題行動の大きな要因と考えられる悩みを生徒自らが解決していくための教師の指導・援助の在り方について明らかにしようとしたものである。

まず、調査によって中学生の悩みの特徴をとらえた。その結果、勉強・成績や進路に関する内面的な悩みが多く、これらの悩みを外部に表出することなく自分の中に抱え込む傾向が見られた。また、服装など外面的な悩みについては友達に相談し、相談できる友達同士で閉鎖的な集団を作りやすいこと、また、悩みを教師などにはほとんど相談しないといった傾向が見られた。このように悩みを理解し事例研究をすすめる中で、次のような行動特徴をとらえることができた。

- 1 物事をつきつめて考えることがない。
- 2 教師に相談したいが、積極的になれないという相反した心理構造がみられた。
- 3 教師よりも友人との人間関係を重視する。
- 4 教師の存在感がうすく、教師に対する批判的傾向や不信感の強い場合もみられる。
- 5 グループ間で排他的・閉鎖的傾向がみられる。

さらに、生徒のもつ悩みを解決する力を育てるための指導・援助をすすめていく上での次のような留意点が明らかになった。

- 1 日常生活において、何気ない自然な接触を図りながら、心の交流を深めたり平素の授業や行事での触れ合いを大切にすること。
- 2 共感的態度で生徒に接し、教師の存在感や信頼感を高めること。
- 3 健全な友人関係を育てること。

私をはぐくんでくれたもの

武蔵野女子大学教授 金田一 春 彦

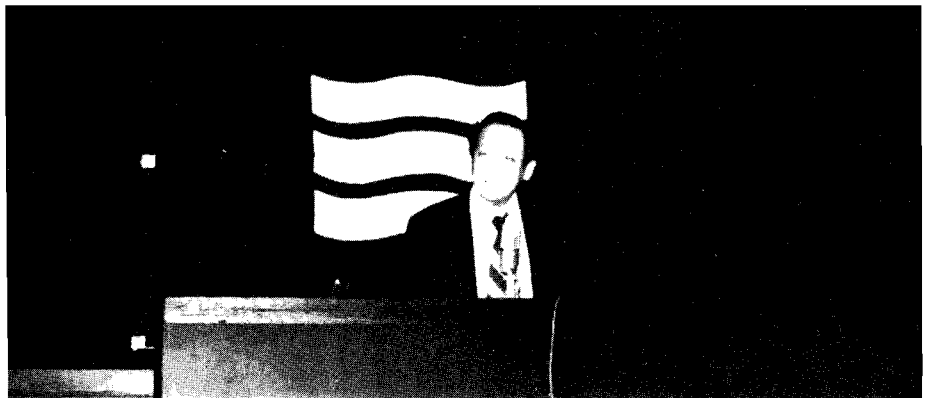
去る12月6日、金田一春彦先生をお迎えし、広島市立広島養護学校屋内体育館で教養講座を開催しました。700名を越す受講者があり、好評でした。

以下、御本人のお許しを得て録音した講演内容の一部を紹介します。

現在、私は言語学を研究していますが、子供の時からそう決めていたわけではありません。私が言語学の道に進むことを決意したのは、旧制高校2年の時に、ある人の言った短い言葉によるものです。

当時、私の父は、国学院大学の教授をしまして、家にもよく学生が来ていました。その学生の一人が、本居長世先生のところへ遊びに行くと大歓迎を受けたと話していたということを父から聞きました。その話を聞いて、自分も本居長世先生のところへ行こうと決心しました。これも私の一生のうちで、非常に大きな事件でありました。本居長世先生という方は、私の子供の頃、「十五夜お月さん」を作曲した人で、あんな曲を自分も作りたいとあこがれていました。私は、その本居先生のところに行けるというだけで、喜んでとんでいったものでした。

本居先生のところへ行きながら、一度「私も作曲家になりたいのです。先生、よろしくお願いします。」と言おうと思ったんですが、なかなかその機会がありません。今日こそは言おうと思って行ったのが、私が旧制高校2年の5月でした。なかなか切り出せないまま



時が過ぎていきました。

そのうち、若い女の人が、ピアノのレッスンにやってきました。先生は私に待っているように言われ、ピアノの前に行かれたが、やがて何という曲か、そのお弟子さんが弾きはじめました。手がよく動くなと感心して聞いていると、本居先生が「その次は私が弾こう。」と言って、代わって弾かれました。そのすばらしいこと、これが神技のようっていいんでしょうか、この時の本居先生のピアノぐらいいごいと思ったことはありませんでした。これで、作曲家になろうという気持ちは、いっぺんに吹き飛んでしまいました。私は、憂うつな気持ちで本居邸を辞しました。

日射しが、夏のように暑い日でした。学生服に汗をにじませながら、日黒駅の方へ行きかけた時、本居先生のところで、バイオリンを弾いておられる遠藤さんという人と一語になりました。あとから思うと、私が意気消沈しているの、励ましてやろうと思われたの

かもしれませんが、遠藤さんが私に向かって「本居先生はあなたのことを、あれはおとうさんのあとを継げる人だとおっしゃっていましたよ。」とささやくのです。遠藤さんは、私より背の高い人ですから、まさに神様の声みたいなきがしました。私は、この言葉に身をゆすられる思いがしました。

夏休みに入る前、父のところへ行きて、「私もおとうさんのように、学者になろうと思うようになりました。」と言いました。父はびっくりしたような目をしていましたが、やがてその意味がわかった時、とても美しい表情になりました。父はすぐに、「学者になって言っても何を研究するつもりだ。」と聞きました。私は迷わず、「アクセントの研究をやろうと思います。」と答えました。これが現在までずっと続いているわけです。

その時、父は、服部四郎博士の書かれた本を出して、これを読んでみたらどうだと言ってくれました。この本を読んで、なるほどアクセントというものは、研究するに足るものだと思いました。また、この本の著者の服部先生が、現在は日本語の系統論の方に転進して、方言のアクセントの研究は中絶したという話も、私に希望を与えてくれました。私は服部先生が研究し残された日本語のアクセントの地理的分布を明らかにしようと、その時決めたわけでありました。

それから私は父に、「どなたか、私の手本になるような人はいませんか。私はそういう人になろうと思います。」と言いました。そうすると、「自分の友達に東条操君という人がいる。大変性格のよい人だ。お前は東条君を見習いなさい。」と言ってくれました。たしかに東条先生はよい人でした。私が言語学会の幹事をするきっかけをつくってくださいまして、やはりよかったです。父親というものは、いざという時、いいことを言うものだと思います。その時の父親の教えは、身に

しみてありがたいと思っています。

また、こんなことも言いました。「お前は言語学をやると言うが、決してやってはいけないものが三つある。一つは語源研究だ。たとえば山はなぜ山と言うか、川はなぜ川と言うか。これは決してわかりっこない。何かこじつけをしたくなるからやめた方がいい。もう一つは系統論の研究、日本語はどこの言語と同じ系統かということ。これも今までどのくらい多くの学者が、努力を重ねてきたかわからない。これを知るにはものすごい研究や勉強が必要だが、とうていお前には耐えられないだろうから、系統論はやめた方がいい。ほかにやりたい人がいくらでもいるから、お前はそれを見ていればよい。」と言いました。これはいい忠告だったと思います。

それからもう一つ、こんなことを言いました。「お前はいつか言っていたけど、こういう研究はしてはいけない。たとえば、詩を読んでsの音が多いから、さわやかな感じがするとか、aの母音が多いから、広大な感じがするといった研究も、こじつけをやりたくなるからやめた方がいい。」と。これも本当にいい教えだったと感謝しています。

私をはぐくんでくれたものはたくさんありますが、第一番は、私の父、金田一京助だろうと思うのです。



熱心に受講中の先生方

広島市立学校教育研究生 研究紹介

本年度は20名の先生方が広島市立学校教育研究生として、8月から10月の3か月間、当教育センターにおいて研修をされました。ここでは、研究の趣旨を紹介します。詳しくは、3月刊行予定の「研究集録第3号」を御覧ください。

国語科

◆読解指導をふまえた作文力の育成について

広島市立伴小学校教諭 丸本克己
児童が意欲的に読みすすめ、「読み」を深め、確かな感想を持ち、それを感想文に書けるようになる指導の在り方を研究した。

◆確かな作文力育成のための指導法の工夫

広島市立鈴が峰小学校教諭 田原和子
作文教育の方法を改善するために、①生活の中で、どのように文章課題を発見させるか、②教師は作文をどのように合理的・科学的に評価するかについて実践的研究をすすめた。

社会科

◆社会科学習における「関心・態度」を育てる指導法の研究

広島市立亀崎小学校教諭 山口裕子
地域の社会事象に関心を持ち、それを意欲的に調べようとする態度を育てる指導の手だてや評価の在り方について考察した。

算数科

◆子供の思考過程をふまえた算数科の指導

—「比」の指導を中心に—

広島市立吉島東小学校教諭 竹中幸子
比の指導を通して、児童の心の動きを大切にしたい指導過程と望ましい学習課題の条件について考察した。

理科

◆理科におけるVTR教材の制作とその効果的活用について—「光」の学習を通して—

広島市立黄金山小学校教諭 木村道顕
光の単元について、自作VTRの効果的な活用場面とその内容について検討し、また、自作VTRを活用することによる学習効果について考察した。

◆燃焼実験の工夫とその成果に関する研究

広島市立高陽中学校教諭 秋田了二
広島市中学校理科教育研究グループが開発した燃焼実験装置の有効性について、授業実践中の生徒の様子、授業後のアンケート、テスト結果などから検討し、有効性を実証した。

音楽科

◆ひびきのある歌声づくりの指導—星の世界を通して—

広島市立口田小学校教諭 遠藤優子
頭声的発声のための具体的な指導・助言とカデンツの効果的な指導の在り方についての研究を行い、個々の歌声の向上をめざした。

図画工作科

◆楽しく使って遊べる「風車」の工夫とその指導—素材「紙」を使用して—

広島市立幟町小学校教諭 原垣京子
紙を素材として、遊べるおもちゃ製作を通して、発想、意欲、遊び方の実態を把握するとともに、効果的な指導の在り方を考察した。

技術・家庭科

◆「自己評価表」を活用したつまずきの把握に関する研究—技術・家庭科〔木工1〕を中心として—

広島市立船越中学校教諭 村上卓
1年生「木材加工」の実習において、指導計画、指導内容・方法等に関して、生徒のつまずきと指導の在り方を分析的にとらえた。

体育科

◆体操の楽しさを高める動きづくりの指導はどうあるべきか

広島市立緑井小学校教諭 山本福三
体操の楽しさを児童自らが体得するための手だてについて、授業実践を中心として、その段階性や方法を明らかにした。

外国語（英語）科

- ◆文法指導に関する基礎研究—「形容詞の後置修飾」による不定詞（形容詞的用法）の指導—

広島市立城南中学校教諭 小西英子

「形容詞の後置修飾」という視点から不定詞「形容詞的用法」を導入、指導するなかで、不定詞3用法の効果的な指導法を探った。

道徳

- ◆道徳的価値を主体的に自覚させるための指導法の研究—表現活動を通して—

広島市立古田小学校教諭 内藤民雄

道徳的価値の自覚を促すために、表現活動による指導過程の基本型をつくり、授業を通して、指導内容や指導の手だてについて考察した。

- ◆一人ひとりが生かされる道徳授業の実践研究—表現活動を取り入れた授業の工夫—

広島市立楠那中学校教諭 岩見和子

学校の重点目標として取り組んでいる美化活動の実態把握と、その実態から明らかとなった問題点に焦点をあてた授業の検討をした。

特別活動

- ◆話し合い活動における司会の指導に関する研究

広島市立鈴張小学校教諭 津田洋子

学級の児童全員の発言参加を促進するような司会の仕方、及び司会意欲を高める指導の在り方について研究した。

生徒指導

- ◆新設校における生徒指導態勢

広島市立安佐北高等学校教諭 木下和夫

新設校における生徒指導のすすめ方について、生徒指導態勢づくりを中心に事例を交えながら考察をした。

障害児教育

- ◆自閉症児の「感覚・運動」指導—リズム運動を中心として—

広島市立袋町小学校教諭 中本晴美

自閉症児の感覚・運動の発達を促す指導プ

ログラム試案を作成し、それに基づいた実践事例を通して指導内容・手だてを検討した。

教育工学

- ◆授業におけるマイクロコンピュータの活用方法の研究—小学校5年平行四辺形の求積指導を通して—

広島市立長束小学校教諭 杉浦透

実践例の少ないマイクロコンピュータの学習指導面への活用について研究した。平行四辺形の求積学習のプログラムの開発は、教材研究にも役立つのではないかと思う。

- ◆学習指導におけるアナライザー活用法の研究—化学反応式を用いた計算の指導を通して—

広島市立安佐北高等学校教諭 阿部修三

高等学校の授業における集団反応分析装置の活用法について研究した。特に生徒の反応を把握しながら授業を進めると、生徒は意欲的に学習することがわかった。

幼稚園教育

- ◆幼児の自発的な姿についての—考察—自由遊びを通して—

広島市立真危幼稚園教諭 阪本仁美

4歳児に視点をあて、自発性の阻害要因を探り、自発的に遊べるようになるための指導法について研究した。

- ◆仲間づくりをめざす保育の方法・形態の研究

広島市立安西幼稚園教諭 佐々木尚美

仲間づくりの要因となる活動の調査や、仲間づくりの要素となるねらいについて分析するとともに、より適切な保育の方法・形態について考察した。



広島市立学校教育研究生研究報告会

教育センターニュース

研究発表

全国教育研究所連盟主催の学校経営研究協議会が、去る11月7、8、9日の3日間、広島県立社会教育センターで開かれました。

この協議会において、当教育センターの重末久人指導主事が研究発表を行いました。テーマは「学校の教育目標に関する分析研究」でした。



分科会の様子

海外からの教育視察

当教育センターでは、昨年来、海外からの教育視察が相次いでいます。今年度も海外から多数の視察団をお迎えしました。

その中から、2組の視察団を紹介します。

◆中華人民共和国より

5月28日、中共中央党校副校長の韓樹英氏を団長とする中国国際政治・経済・哲学者訪日代表団の一行5名の方が、来所されました。

主に教育工学関係の設備を視察されました。



視察中の代表団の一行

◆大韓民国，順天市より

順天曉泉高校訪日研修団の一行6名の方が8月24日来所されました。

当教育センターの施設・設備の全般にわたって、熱心に視察されました。

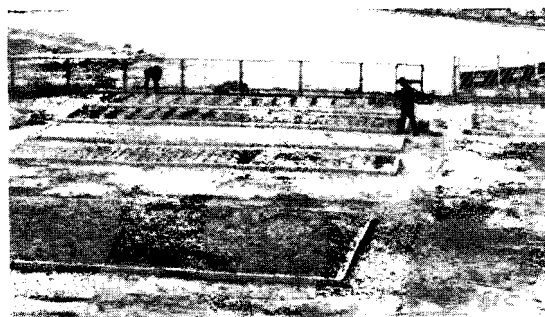
好意の生花

玄関に入ると、季節の彩りが活けられているのに、お気付きでしょうか。牛田新町にお住まいの華道家善光俊久氏の御好意によるものです。来所者の皆様へ、心豊かな香りを届けてもらっています。



教材園

教育センター下のグラウンドの一角に、職員作業によって教材園を作りました。栽培中の植物は、主に理科関係の研修講座等に活用する予定です。



編集後記

今年度最後の所報をお届けします。今回は、教育研究を中心に編集しました。

3学期は、校内研究等のまとめの時期でもあります。参考にいただければと思います。